

## 京都市における人口移動 — 「住民基本台帳人口移動報告 平成23年結果」から—

総務省統計局から平成24年1月30日に公表された「住民基本台帳人口移動報告 平成23年結果」の中から、京都市に関する数値をご紹介します。

### ○京都市における移動状況の概要 — 全体では44年ぶり、男性では43年ぶりの転入超過—

平成23年中の京都市における転入超過数(注)は1,335人で、昭和43年から続いてきた転出超過から、44年ぶりに転入超過に転じました。

男性の転入超過数は168人で、昭和44年から続いてきた転出超過から、43年ぶりに転入超過に転じました。

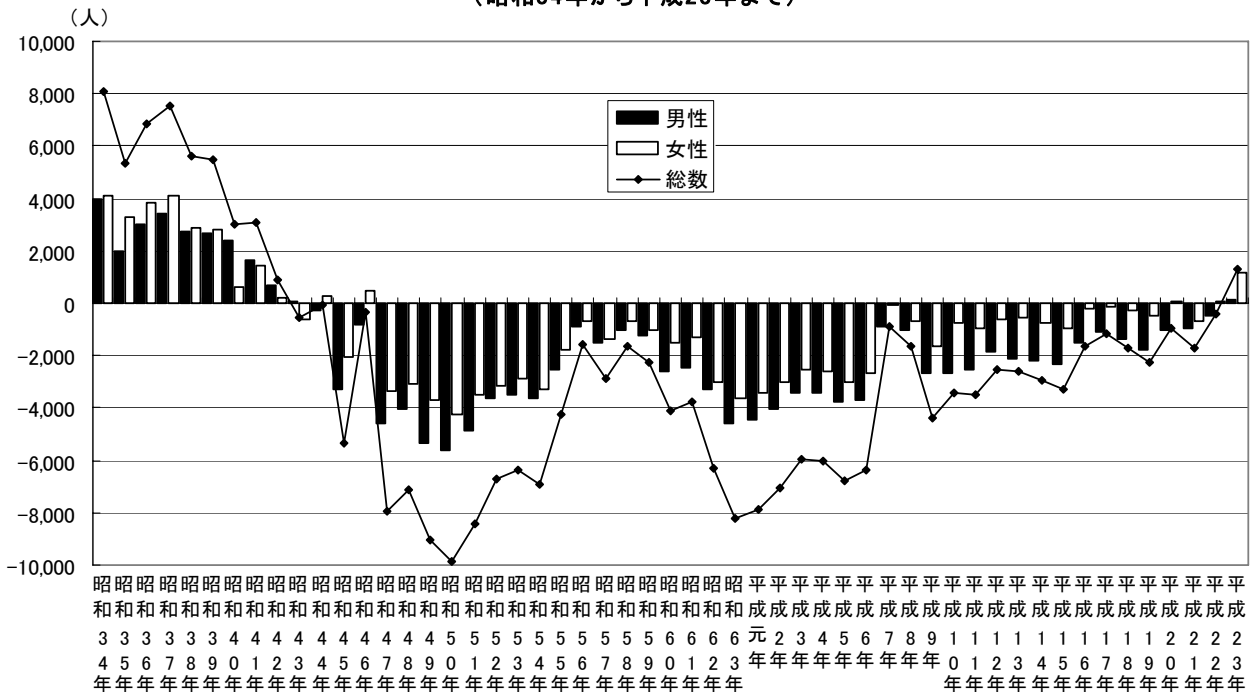
女性の転入超過数は1,167人で、2年連続で転入超過となりました。

また、男女の転入超過数を比較すると、昭和44年から43年連続で女性の転入超過数が多く(転出超過数が少なく)なっています。

(注)転入超過数とは、区域外からの転入者数から、区域外への転出者数を引いたものです。

転入超過数がマイナス(この統計トピックでは、総務省統計局に倣い、記号「-」を使用しています。)の場合は、転出者数が転入者数を上回る転出超過です。

図-1 京都市における男女別転入超過数の推移 (昭和34年から平成23年まで)

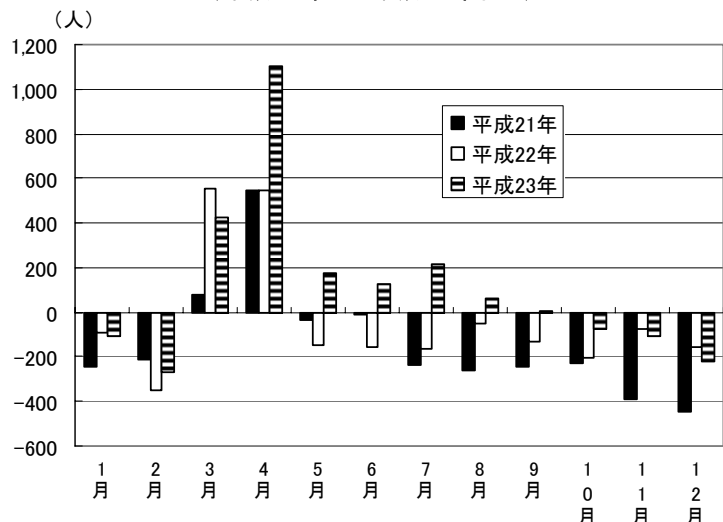


### ○月別の転入超過数 — 7箇月連続で転入超過—

平成23年中の京都市における転入超過数を月別にみますと、最も転入超過数が多いのは4月の1,106人で、次いで3月の423人、7月の218人の順となりました。逆に、転出超過数が多いのは2月の269人で、次いで12月の220人、11月の110人の順でした。

平成23年と、平成21年及び平成22年とを比較すると、平成21年及び平成22年は、転入超過が3月及び4月の2箇月のみで、残り10箇月は転出超過でした。一方、平成23年は、3月から9月までの7箇月連続で転入超過となり、転出超過は1月及び2月と、10月以降でした。

図-2 月別の転入超過数 (平成21年から平成23年まで)



## ○行政区別男女別年齢3区分別の転入超過数 —転入超過数が最も多いのは中京区—

平成23年中の行政区ごとの転入超過数をみますと、最も転入超過数が多いのは中京区の1,080人で、次いで右京区の648人、下京区の473人の順でした。また、11区中、6区が転入超過、5区が転出超過でした。

男性の転入超過数が最も多いのは中京区の669人で、次いで右京区の271人、下京区の184人の順でした。また、11区中、6区が転入超過、5区が転出超過でした。

女性の転入超過数が最も多いのは中京区の411人で、次いで右京区の377人、下京区の289人の順でした。また、11区中、7区が転入超過、4区が転出超過でした。

年齢3区分別に転入超過数をみますと、0歳から14歳までの年少人口では5区が、15歳から64歳までの生産年齢人口では7区が、65歳以上の老年人口では4区が、それぞれ転入超過となりました。

表－1 行政区別男女別年齢3区分別転入超過数(平成23年)

(単位 人)

| 市・行政区 | 総数    |       |        |       | 男性   |       |        |       | 女性    |       |        |       |
|-------|-------|-------|--------|-------|------|-------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|
|       | 総数    | 0～14歳 | 15～64歳 | 65歳以上 | 総数   | 0～14歳 | 15～64歳 | 65歳以上 | 総数    | 0～14歳 | 15～64歳 | 65歳以上 |
| 京都市   | 1,335 | -435  | 1,760  | 10    | 168  | -304  | 468    | 4     | 1,167 | -131  | 1,292  | 6     |
| 北区    | -287  | 44    | -287   | -44   | -211 | 19    | -232   | 2     | -76   | 25    | -55    | -46   |
| 上京区   | 391   | 82    | 311    | -2    | 163  | 31    | 119    | 13    | 228   | 51    | 192    | -15   |
| 左京区   | 311   | 201   | 152    | -42   | 51   | 93    | -2     | -40   | 260   | 108   | 154    | -2    |
| 中京区   | 1,080 | 139   | 969    | -28   | 669  | 65    | 605    | -1    | 411   | 74    | 364    | -27   |
| 東山区   | 143   | 25    | 145    | -27   | 41   | 19    | 31     | -9    | 102   | 6     | 114    | -18   |
| 山科区   | -331  | -130  | -225   | 24    | -207 | -76   | -126   | -5    | -124  | -54   | -99    | 29    |
| 下京区   | 473   | -172  | 679    | -34   | 184  | -89   | 295    | -22   | 289   | -83   | 384    | -12   |
| 南区    | -48   | -180  | 160    | -28   | -123 | -109  | 16     | -30   | 75    | -71   | 144    | 2     |
| 右京区   | 648   | -46   | 645    | 49    | 271  | 5     | 255    | 11    | 377   | -51   | 390    | 38    |
| 西京区   | -436  | -94   | -398   | 56    | -331 | -73   | -287   | 29    | -105  | -21   | -111   | 27    |
| 伏見区   | -609  | -304  | -391   | 86    | -339 | -189  | -206   | 56    | -270  | -115  | -185   | 30    |

## ○地域別の転入超過数 —近畿を除き転入超過—

平成23年中の京都市における転入超過数を地域(注)別にみますと、最も転入超過数が多い地域は中部からの795人で、次いで中国からの484人、九州からの414人の順でした。

平成23年と、平成21年及び平成22年とを比較しますと、平成21年及び平成22年は関東及び近畿について転出超過となっていました。平成23年は関東で転入超過に転じ、転出超過は近畿のみとなりました。

(注)北海道を除く各地域に含まれる都府県は、次のとおりです。

東北 = 青森、岩手、宮城、秋田、山形及び福島

関東 = 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京及び神奈川

中部 = 新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知及び三重

近畿 = 京都、滋賀、大阪、兵庫、奈良及び和歌山

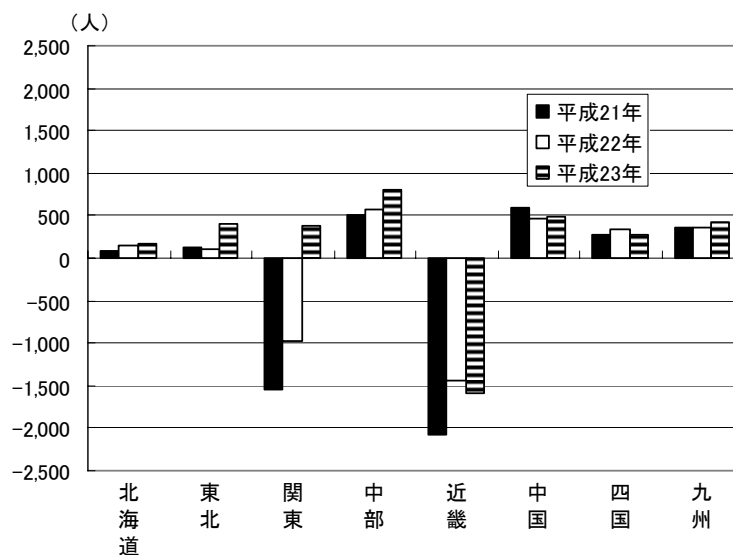
中国 = 鳥取、島根、岡山、広島及び山口

四国 = 徳島、香川、愛媛及び高知

九州 = 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島及び沖縄

なお、近畿に含まれる京都府の数値は、京都市と、京都府下の京都市を除く市町村との転入超過数です。

図－3 地域別転入超過数 (平成21年から平成23年)



この統計トピックに掲載しているデータに加え、京都市における都道府県別の転入・転出者数等を、「京都市の統計情報 (Statistics Kyoto City)」(<http://www.city.kyoto.jp/sogo/toukei/index.html>)に「Microsoft Excel」形式で掲載しています。